

## ■財務部

### 1. 概要

今期は、新型コロナウイルス拡大により保健予防活動収益の大幅な減収、外来・入院患者数の減少で始まったが、6月以降は前年実績を上回る月も多く業況は急速に回復した。また、京橋クリニックでのPCR検査の実施、本院での新型コロナウイルス感染者の病床確保、成田空港検疫所へのスタッフ派遣等による医療機関の責務を果たすことにより国や県からの補助金収入や業務委託料収入も、収益拡大の一助となり、例年とは内容的に大きく変化のあった年であった。

決算状況については、医業収益 52,739 百万円（前年比+1,986 百万円（うち入院収益+616 百万円・外来収益+515 百万円・保健予防活動収益△317 百万円他））となり前年比大きく増収となる一方で、医業費用は 52,036 百万円（前期比+1,622 百万円）となり、費用も前年比大きく増加した。要因は高額薬品等の使用量の増加及び高額な診療材料の使用量増加によることが大きい。また給与費は 24,389 百万円（前年比+865 百万円）となり、これは高度先進医療の更なる充実を図る事等から、医師+13 人・看護師+6 人・医療技術者 28 人等の職員の増加、またコロナ対応等による時間外勤務の増加等に起因するものである。

結果として今期は、医業利益 703 百万円（前年比+364 百万円）、経常利益 1,478 百万円（前年比+987 百万円）、税引前当期純利益 735 百万円（前年比+543 百万円）といずれも前年を大幅に上回る業績となった。

財務活動、特に資金繰り関連においては、新たな設備資金等の借入は計画通り行う一方 2020 年度も資金繰りの安定化を図りつつ、資金効率の向上を目指し、有利子負債の圧縮及び資金調達コストの低減化を昨年に続き強化した。

これにより、新規設備投資資金の借入額を除く有利子負債は、前年比△1,036 百万円の圧縮を行った。また借入平均金利(3月実績)は 0.898%となり前年比△0.054%の成果を収めることができた。

### 2. 2021 年度推進計画

#### 計画①〔財務の視点〕

2020 年度に作成した「中期経営計画」の進捗を検証しながら、コロナ感染症の影響等を鑑み 2021 年度の損益状況について正確な情報を経営者へ開示する。

#### 計画②〔顧客の視点〕

2021 年度の損益・資金繰り計画については、2021 年度上期実績を十分に検証し、必要に応じて下期の修正計画を策定する。

#### 計画③〔内部プロセスの視点〕

2021 年度監査法人監査四期目に向け、会計上の対応決定事項を踏まえ財務部内の体制を強化する。

#### 計画④〔学習と成長の視点〕

財務部員のスキルアップを図るため、部内の勉強会を設け、会計・税務への理解を図る。

### 3. 2020 年度評価

#### 計画①〔財務の視点〕

2018 年度策定した中期経営計画に沿った財務の目標。

ア. 経常利益 6 億円以上を目標とする。

イ. 給与費 医業収益の 46%以内を目標とする。

〔結果〕2020年度はコロナウイルス問題により保健予防活動収益は減収となったものの、入院・外来収益が予算を大幅クリアし、また運営補助金 1,392 百万円(新型コロナウイルス支援事業補助金(千葉県)1,178 百万円)の支給もあり、医業利益は前年度比+364 百万円、経常利益は前年度比+987 百万円の1,478 百万円となり目標を達成できた。給与費については、コロナ禍での職員を労うため期末賞与を支給したことにより、若干ではあるが予算超過となった。

#### 計画②〔顧客の視点〕

2020年度の損益・資金繰り計画については、2020年度上期実績を十分に検証し、必要に応じて下期の修正計画を策定する。

〔結果〕2020年度下期の損益・資金繰り修正を行ない、10月の理事会で承認を得た。

#### 計画③〔内部プロセスの視点〕

2020年度監査法人監査三期目に向け、会計上の対応決定事項を踏まえ財務部内の体制を強化する。

〔結果〕2020年度についても大きな指摘事項はなく「無限定適正意見」となった。

#### 計画④〔学習と成長の視点〕 5

財務部員のスキルアップを図るため、各種研修へ積極的に参加する。

〔結果〕顧問税理士による税務研修会を行うなど、全部員のスキルアップが行われ着実な実力アップに繋がったが、各種外部研修会への参加は低調であった。

文責：安川篤志